

くすり一口メモ

自動車の運転に対し制限のない第二世代抗ヒスタミン薬について

抗ヒスタミン薬の多くは、添付文書上に自動車運転に関する注意喚起文が記載されています。注意喚起文には「自動車の運転等危険を伴う機械の操作には十分注意させること」と「自動車の運転等危険を伴う機械の操作には従事させないように十分注意すること」の2種類があり、後者の方がより制限の強い表現となっています。

抗ヒスタミン薬はくしゃみや鼻水に対し頻繁に使用されていますが、主観的な眠気だけでなくインペアード・パフォーマンス（薬剤の脳移行による自覚有無に関わらない集中力、判断力、作業能率の低下）が起こりうる薬剤でもあります。そのため自動車の運転をする患者に対しては注意喚起を行う必要があります。

2016年11月に自動車運転に対する注意喚起を必要としない抗ヒスタミン薬として、デスロラタジンとピラスチンの2種類が薬価収載されました。そこで、今回は抗ヒスタミン薬の中で自動車運転等の危険操作に関する注意喚起を必要としない第二世代抗ヒスタミン薬についてまとめてみました。

表1 危険操作に関する注意喚起文が記載されていない第二世代の抗ヒスタミン薬

一般名	製品名	製薬会社	剤形, 規格	用法用量	腎機能障害時の減量	適 応
デスロラタジン	デザレックス	MSD	錠(5mg)	1回5mgを1日1回	不 要	アレルギー性鼻炎, 蕁麻疹, 皮膚疾患(湿疹・皮膚炎・皮膚そう痒症・アトピー性皮膚炎)に伴う搔痒
ピラスチン	ピラノア	大鵬薬品工業	錠(20mg)	1回20mgを1日1回空腹時		
フェキソフェナジン	アレグラ	サノフィ	錠(30, 60mg), OD錠(60mg), DS(5%)	1回60mgを1日2回		
ロラタジン	クラリチン	バイエル薬品	錠(10mg), DS(1%), レディタブ錠(10mg)	1回10mgを1日1回食後		

*OD錠：口腔内崩壊錠, DS：ドライシロップ

抗ヒスタミン薬の中で注意喚起を必要としない薬剤には、新たに薬価収載となった2剤に加えフェキソフェナジンとロラタジンがあります。4剤とも腎機能低下時に減量する必要はなく、適応も同じとなっています。デスロラタジンは広く使用されているロラタジンの主要活性代謝物であり、食事に関係なく1日1回の投与が可能な薬剤です。ピラスチンは食後に投与することで空腹時と比較し、AUC（血中濃度－時間曲線下面積）が約40%、Cmax（最高血中濃度）が約60%低下するため、空腹時投与となっています。フェキソフェナジンは4剤の中で唯一1日2回服用の製剤であり、添付文書で定められた常用量を超えてもインペアード・パフォーマンスをきたさないことが確認されています。

第一世代抗ヒスタミン薬に分類されるクロルフェニラミンやジフェンヒドラミンなどは全て危険操作に関する注意喚起文が記載されていますのでご注意ください。第二世代抗ヒスタミン薬と同様の適応を持つ薬に抗アレルギー薬がありますが、どれも自動車運転の制限に関する注意喚起文は記載されておりません。

【参考文献】

病気とくすり2016, 各薬剤の添付文書, 各インタビューフォーム

(鹿児島市医師会病院薬剤部 池ノ上知世)